

## 尿中異型細胞のスコア分類について

◎稲垣 裕介<sup>1)</sup>、吉本 尚子<sup>1)</sup>、角屋 雅路<sup>1)</sup>、早川 真紀子<sup>1)</sup>、今井 律子<sup>1)</sup>、服部 聡<sup>1)</sup>、加藤 節子<sup>1)</sup>、山内 昭浩<sup>1)</sup>  
公立西知多総合病院<sup>1)</sup>

【はじめに】日本臨床細胞学会泌尿器報告様式2015では高異型度尿路上皮癌(High grade urothelial carcinoma:HGUC)の診断を優先しており、「異型細胞の診断」の指標として主要5項目①核クロマチン増量(核濃染)、②核形不整、③N/C比大、④核偏在、⑤核腫大が挙げられている。これらの5所見が多数の細胞に観察されれば尿細胞診断は「悪性、推定組織型HGUC」と診断してよいと記載されている。今回これらの5所見について一般尿沈渣と細胞診標本で比較検討したので報告する。

【対象】2018年6月から2019年1月の間に尿沈渣「異型細胞」を指摘した22症例25検体(年齢50才代から90才代、男性17検体、女性9検体)を用いた。癌症例12検体(HGUC 9検体、LGUC 2検体、異形成1検体。組織診断がなされている。)、非癌症例13検体である。

【方法】一般検査において沈渣(Sternheimer染色標本、以下S染標本)所見で「異型細胞」を指摘した同一尿検体(沈渣残り)からPap.標本を作製し異型細胞を観察した。報告様式2015に記載された主要5項目について各所見を0~2のスコア分類し、一般沈渣およびPap.標本中の異型細胞をスコア分類し、その合計スコアを求めた。

【結果】S染標本とPap.標本を対比した各検体のスコアをグラフに示す。

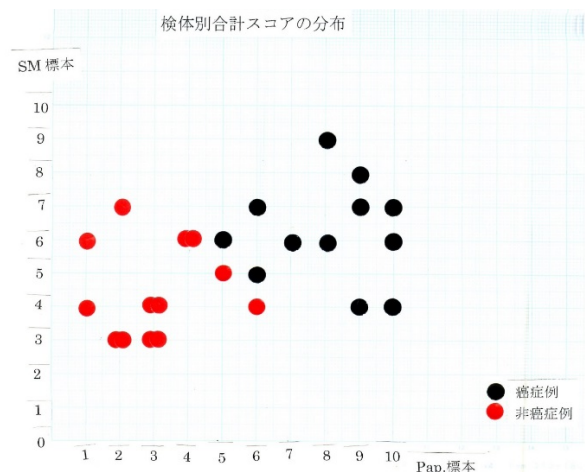
- ・「尿中異型細胞」のスコア分布はS染標本とPap.標本で同様の傾向が認められた。
- ・S染標本ではスコア8点以上を悪性、3点以下を良性と推定可能で、4~7点は良悪性鑑別困難であった。
- ・Pap.標本ではスコア7点以上を悪性、4点以

下を良性と推定可能で、5~6点は良悪性鑑別困難であった。

- ・癌症例2検体、非癌症例2検体にS染標本、Pap.標本のスコアに解離が見られた。

## 【まとめ】

- ・主要5項目のスコア分類は「異型細胞」の良悪性推定の指標になると考えられる。
- ・S染標本とPap.標本の比較では同一の細胞を観察できないので各スコア判定に解離が認められたと考えられる。
- ・スコア分類するには観察者間の「目合わせ」が大切である。



## 主要5項目のスコア分類

スコア	核腫大	N/C	核クロマチン	核形不整	核偏在性
0	核腫大なし	50%未満	正常尿路上皮・中層扁平上皮の核と同様	類円形核	中心核
1	正常尿路上皮、中層扁平上皮の核より大きい	50%~70%未満	正常尿路上皮・中層扁平上皮の核より濃い	核縁の凹凸、切れ込み、歪み	核が細胞脚に付着
2	好中球の2倍以上の大きさ	70%以上	好中球核と同等あるいはそれ以上	立体不整* (濃染を要すると核形が変化する)	核突出

泌尿器細胞診報告様式に沿ったワークショップ講義資料より抜粋

公立西知多総合病院臨床検査科

TEL 0562-33-5500 (内線 22401)